

# 福島県の経塚遺物展

## 解説目録

とき 昭和52年9月1日(木)~9月30日(金)

ところ 福島県文化センター歴史資料館展示室

主催 福島県文化センター・福島県教育委員会

## 経塚について

主として、法華經等の經典を書き写して、これを經筒や經箱などの容器に入れ、土の中に埋納し土盛りしたところを経塚とよびならわしている。

日本においては、慈覺大師円仁（七九四～八六四、平安時代前期の天台宗の僧）が比叡山の横川において始めた如法写經を契機として、およそ一〇世紀の終り頃から、先ず近畿地方に造営がはじまつたとされている。東北においては、これよりずっと遅れて、十二世紀に入つてからであるが、その最初のものが本県喜多方市の松野千光經塚であることは注目される。

経塚の造営は、その始めにおいて、平安時代に切実化した末法思想、つまり仏法が滅するということを怖れて、これにそなえて經典を地下に埋め、後の人々に伝えようとしたのであるが、次第に自己中心的な私益のみを考えた造営に変つて来ると

いわれる。

経塚造営の最盛期は、平安時代の末期から鎌倉初期頃であるが、この時期の経塚は、法華信仰を中心とする天台宗関係の寺院近くや、修驗の靈地等から発見される場合が多い。

経塚は、平安時代以後も鎌倉・室町・江戸と各時代を通して造営されるのであるが、ことに室町以後はかなり造営の主旨も内容も変つてしまつ。

今回の展示においては、平安期の主要な経塚遺物をはじめ、室町・江戸時代の経塚遺物を一堂に展覧しており、経塚というもののへの理解を深めるには勿論のこと、信仰史、美術・工芸史的にもみるべきものと思われる。

この機会に多くの方にご高覧いただければ幸いである。

最後に、本展覧会に出陳の御協力を賜わった方々、ならびに種々お手配いただいた関係教育委員会に対し厚く謝意を表するとともに、目録作成にあたつて格別のご寄稿を賜わった東京国立博物館の関先生に対し厚く御礼申し上げる次第である。

## 一、天王寺経塚

大檀主藤原真年縁友作代

平安時代後期

福島市飯坂町字天王寺

同姓代

同姓代

小勤進 白井友包 糸井国数

藤原貞清 縁友源代

藤井末遠 日田部貞家

小太良殿

佛子僧宴海 僧慶勢

稻石丸

稻石丸

源長宗縁友

天王寺

右志者為慈尊三会之晚同令  
一佛淨土往生也

天王寺の裏山頂上から明治三十二年

（一八九九）一月に発見された経塚で陶

製經筒（外筒）の他陶製壺が伴出している。

経筒には、  
承安元年歲次癸卯 八月十九日

取筆僧 長筌

とあり、この経筒は初め天王寺の如法

堂内に奉納されたのち、経塚として埋納されたことが知られる。

敬白

奉施人

信夫御庄天王寺如法堂印

大勸進聖人僧定心

さざれ

れる

こと

が

る

こと

が

## 二、平沢寺経塚

平安時代後期

伊達郡桑折町

ているが早くから人出に渡り大正十二年の震災のとき失なわれたという。幸い拓本が伝えられ経筒には次のような銘文がある。

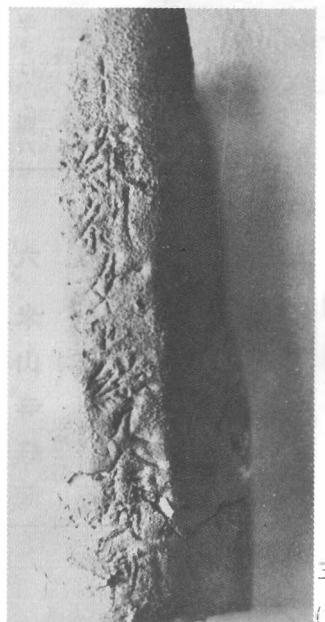
経筒拓本(県重文) 一幅

氏家 宏

敬白 奉施入

文政五年(一八二二)開墾の折に発見、伊達郡平沢寺如法鉄

承安元年(一一七一)銘の経筒が出土し 大觀進聖人僧長胤



三一(1)



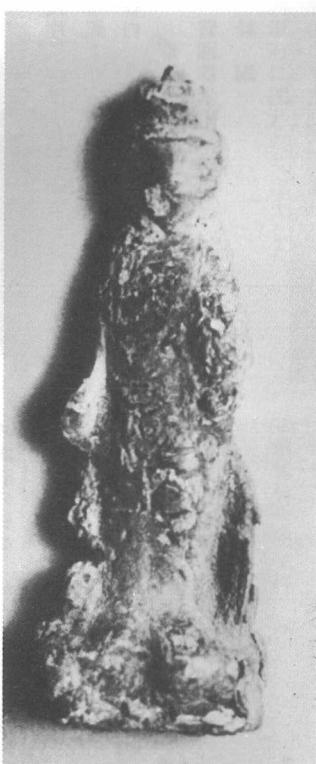
三一(2)

## 三、行人壇経塚

室町時代  
伊達郡靈山町下小国

みられ、陰刻銘に  
十羅刹女 上総・四住覲明  
奉納経王六十六部第二典  
三十番神 天文二年吉旦  
大河内 勉  
銅製経筒片に陰刻銘および墨書き銘文が

- (1) 銅製鍍金経筒片
- (2) 銅製觀音像
- (3) 銅製伏鉢
- (4) 古銭
- (5) 陶製容器



とある。

大檀主 僧永筌  
糸井国数  
藤原貞清  
白井友包

藤井未遠

右志者為慈尊晚

一佛國土往生也

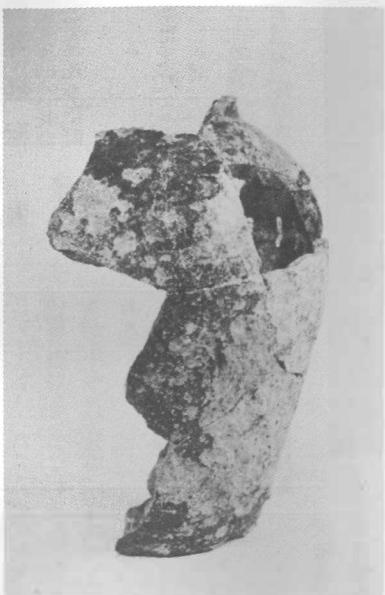
承安元年(一一七一)  
二十八日午後

三一(3)

## 四、山経塚

平安時代後期  
伊達郡靈山町大字大石

一三・六センチ、器壁の厚さは〇・四六センチと厚手である。底部に鋲口がある。



五—(1)

## 五、西田山経塚

明治期に出土したらし  
いが、その折の記録等は不明である。造りが良く、また鋲上りも良い。口径

伊達郡川俣町大字東福沢

### (1) 灰釉陶製壺

川俣町教育委員会

昭和五十年五月二十四日より二十八日

### (2) 銅製経筒

総高 二六・四センチ  
靈山神社

### (3) 銅製経筒

高二〇・七センチ  
靈山神社

### (4) 銅製鏡

二七・八センチ  
高二〇・七センチ  
靈山神社

### (5) 銅製鑄

三九・五センチ  
高二〇・七センチ  
靈山神社

### (6) 須恵甕

三九・五センチ  
高二〇・七センチ  
靈山神社

## 六、米山寺経塚

平安時代後期  
須賀川市大字西川

右志者為慈尊三会  
大勧進 聖人僧行祐  
大檀主 僧円珍  
糸井国数 藤原貞清  
白井友包 藤原末遠

曉同一佛淨土往生也  
承安元年八月廿八日 辛午

天王寺経筒銘、平沢寺経筒銘とともに同年号で、銘文中にある白井友包、糸井國数、藤原貞清、藤原末遠の四名は同一人物と思われ、三経塚に密接な関係があったことを意味している。

米山寺経塚は昭和五十一年(一九七六年)の調査の結果、現在までに八基の経塚が確認されている。

### (1) 灰釉陶製壺

川俣町教育委員会

昭和五十年五月二十四日より二十八日

### (2) 銅製経筒

伊達郡川俣町大字東福沢

### (3) 銅製経筒

伊達郡川俣町大字東福沢

### (4) 銅製鏡

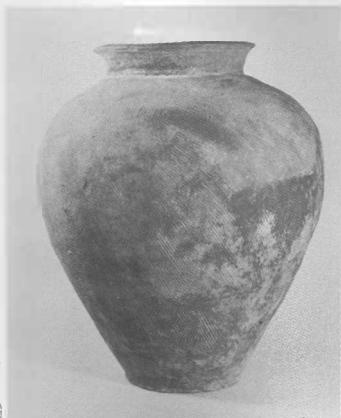
伊達郡川俣町大字東福沢

### (5) 銅製鑄

伊達郡川俣町大字東福沢

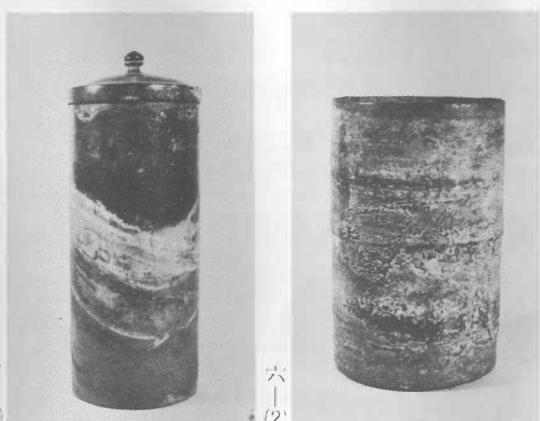
### (6) 須恵甕

伊達郡川俣町大字東福沢



六—(6)

奉施入  
磐瀬郡米山寺如法  
経 銅



六—(3)

## 八、大塚山経塚

鎌倉時代  
会津若松市一箕町

陶製壺（四耳壺）

会津若松市教育委員会

東北最古（四世紀末）とされる大塚山古墳（前方後円墳）の後円部墳丘より発見されたもので、直徑約二〇センチほど

- |             |   |         |
|-------------|---|---------|
| (1) 銅製経筒    | 高 | 二五・五センチ |
| (2) 銅製鍍金経筒  | 高 | 十四・〇センチ |
| (3) 銅製五鉢鉢   | 高 | 十二・〇センチ |
| (4) 銅製五鉢鉢   | 高 | 十二・四センチ |
| (5) 銅製磬     |   |         |
| (6) 銅製鍍金独鉢杵 |   |         |

二瓶 忠



六(1)



七(1)



大塚山

西白河郡東村字天上林

七、天上林経塚

- (1) 松藤双鳥鏡一面面径一〇・六センチ和六年（一九三一）、釜子村深新井田字天上林（現東村）の道路改修工事のときに岩越二郎氏の記録によると、岩越家昭出土したものである。銅鏡が四面出土し、このうち二面が今日伝えられている。経塚と称しているがその他詳細は不明である。
- (2) 山吹鳥蝶鏡一面面径一〇・四センチ



九(1)

## 九、松野千光寺経塚

平安時代後期  
喜多方市慶徳町

今回展示されなかつたが、この経塚から発見された石櫃には「大治五年（一一三〇）歳次庚戌四月二日發酉大檀越財主平孝家 散位源朝俊邦 緑支同氏」の銘があり、本県はもちろん、東北でも最も古い経塚である。実は、会津藩「家世実紀」によると江戸時代初期、寛文年間に一度発見されて埋めもどされたといわれる。昭和九年（一九三四）に再度発見された。出土遺物は今回展示のもの外に石製櫃、壺、刀片、鎌が出土している。

二瓶 忠

# 一〇、五職神経塚

室町時代  
耶麻郡西会津町上野尻

如法経一部願主  
石川之住人

永正十五年(庚寅)三月十八日  
源心敬白

本願檀那妙申

奉納

六十六部之如法経日幻心聖  
旦那

□□野□住人

奥州会津參州住人野尻山本  
永正十六年(己卯)五月廿六日  
六十六部如法経旦那



九—(4)

- (1) 銅製鍍金経筒  
総高十一・七センチ  
(但し蓋欠失)
- (2) 銅製鍍金経筒  
高十一・八センチ  
(但し蓋欠失)
- (3) 銅製鍍金経筒  
総高十二・二センチ
- (4) 石製外櫃  
高三五・三センチ

九—(5)

- (5) 石製外櫃  
(石蓋欠失)  
高三四・五センチ
- (6) 石製外櫃  
(石蓋欠失)

群岡中学校

昭和二十六年(一  
九五二)の工事中地  
下約一メートルの所  
で発見されたもので  
あるが、発見時の状  
態等は不明である。

- 三口の銅経筒には、  
それぞれ次のような  
銘文がある。
- (1) 奉納六十六部之



一〇—(6)



一〇—(1)

## 一一、奥の院経塚

室町時代か

大沼郡新鶴村根岸

銅製鍍金経筒

高九・八センチ

(但し上部欠損)

村松 繁穆

根岸の中田弘安寺銅造觀音（重文）鑄  
造場所と伝えられる奥之院近くから発見  
されたもので、次のような銘文がある。

十又刹女幡笏住一心坊

奉納經王一国十三部

三十り神當年今日

金銅製の経筒があり、次のような銘文が  
ある。

十羅刹女 奥州住人道珍

梵字奉納大日妙典六十六部

三十番神 享禄五天八月吉日

（奥州会津新鶴村誌）による



## 一二、館山経塚

鎌倉時代

大沼郡新鶴村館山

（1）陶製壺

（四耳壺）高二九センチ

村松 繁穆

吳坪山経塚の壺同様平な石で蓋をさ  
れて発見されたという。底部に二・五セ  
ンチ×二・一センチの小孔が外側からあ  
けられていているのが注意される。

## 一五、茶碗塚経塚

中世末か

河沼郡会津坂下町塔寺

経石（一字一石経）

会津坂下町教育委員会

塔寺八幡神社そばの茶碗塚地蔵（石像）

堂下より出土。



## 一四、中目経塚

室町時代

河沼郡会津坂下町中目

経石（一字一石経）

会津坂下町教育委員会

『新編会津風土記』にも一字一石経を埋  
納した旨の記録があり、昭和五十年（一  
九七五）四月に発掘された。

経石の一つに「願以此功德、普及於一  
切、我等与衆生、皆共成仏道」天文十三  
年甲辰九月十八日」とあり、この経塚の  
時代を知る上で貴重な資料となっている。



## 一六、供養塚経塚

中世末か

河沼郡柳津町野老沢

経石（一字一石経）

柳津町教育委員会

野老沢の通称グヨダンと呼ばれる所か  
ら出土する一字一石経である。

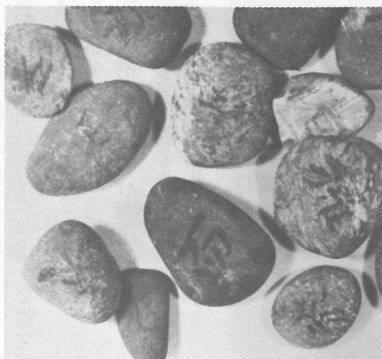
## 一七、釈迦堂経塚

江戸時代から  
河沼郡柳津町

経石（一字一石経）

柳津町教育委員会

柳津町虚空蔵堂奥之院の釈迦堂床下から出土したものである。



## 一八、藏王経塚

平安時代後期

伊達郡川俣町大綱木

銅製経筒 総高 二五センチ

奈良国立博物館

小幡山出土といわれ、別名小幡山経塚ともいう。実は、出土地点等詳しいことは不明で安達郡東和町の木幡山かもしれない。この経筒には紙本經典（法華經と思われる）八巻の塊と石製の外筒がある



## 一九、熊野神社経塚

平安時代後期

西白河郡大信村下小屋

銅製経筒 総高 二六・八センチ

東京国立博物館

内部にくず状になつた墨書による紙本經典がある。その他出土状態等は不明である。



が今回も出品されなかつた。石製外筒は盛蓋式の被せ蓋で身の口縁を印籠につくる。

福島県内経塚分布略図

- ①天王寺経塚（福島市）
- ②平沢寺経塚（桑折町）
- ③小倉寺経塚（福島市）
- ④行人塚経塚（喜多方市）
- ⑤盡山経塚（喜多方市）
- ⑥西田山経塚（川俣町）
- ⑦藏王経塚（川俣or東和町）
- ⑧松倉経塚（及美町）
- ⑨王宮経塚（郡山市）
- ⑩八ッ山田経塚（郡山市）
- ⑪米山寺経塚（須賀川市）
- ⑫熊野神社経塚（大信村）
- ⑬天上林経塚（東村）

- ⑯毘沙門山経塚（喜多方市）
- ⑰松野千光寺経塚（喜多方市）
- ⑱五箇山経塚（西会津町）
- ⑲塔寺経塚（坂下町）
- ⑳茶碗塚経塚（坂下町）



- ㉑中目経塚（坂下町）
- ㉒供養塚経塚（柳津町）
- ㉓帆瀬堂経塚（柳津町）
- ㉔大塚山経塚（若松市）
- ㉕奥の院経塚（新鶴村）
- ㉖吳坪山経塚（新鶴村）
- ㉗鎧山経塚（新鶴村）



- 刀一。
- (3) 三号経塚—陶製甕三、鉄鏹二、短刀一。
- (4) 四号経塚—銅製経筒一、陶製外筒（承安元年銘）一、和鏡一、鉄鏹三〇、短刀一五、古錢一。
- (5) 文献一①②③⑥⑦⑫⑭⑯⑰⑲⑳㉓
- (6) 小倉寺経塚（福島市松川町小倉）
- 遺物—石櫃片
- 文献一⑯
- (7) 元相応寺経塚（安達郡大玉村大山）
- 遺物—経塚供養石塔（嘉元三年銘）
- 文献一⑯
- (8) 靈山寺経塚（伊達郡靈山町）
- 遺物—銅製経筒一。ほかに陶製外筒一、および短刀は所在不明。
- 文献一②⑬⑯㉑㉓
- (9) 行人田経塚（伊達郡靈山町下小国）
- 遺物—銅製経筒片（うち一片に銘文あり）、銅觀音像一、鉢一、白磁香炉一。
- 文献一⑮、藤田定興氏調査
- (10) 平沢寺経塚（伊達郡桑折町平沢）
- 遺物—陶製容器（承安元年銘）一、手拓された拓影のみ遺存する。
- 文献一⑯㉑㉒㉓
- (11) 西田山経塚（伊達郡川俣町東福沢）
- 遺物—陶製容器一、古錢一。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (12) 藏王経塚（伊達郡川俣町大綱木）
- 遺物—銅製経筒一、石製外筒一、経卷塊八。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (13) 七所神社経塚（田村郡田村町小川）
- 遺物—鏡像一。
- 文献一⑯
- (14) 熊野神社経塚（西白河郡大信村下小屋）
- 遺物—銅製経筒一、経巻片、鉄鏹二
- 短刀七。
- 文献一⑯㉖㉧㉙㉚
- (15) 天上林経塚（西白河郡東村）
- 遺物—和鏡二
- 文献一⑯
- (16) 小島経塚（伊達郡川俣町小島）
- 文献一㉔
- (17) 栗和田経塚（伊達郡川俣町西福沢）
- 文献一㉔
- (18) 西原遺跡（田村郡船引町堀越）
- 遺物—和鏡一。
- 文献一㉔
- (19) 芦田塚経塚（須賀川市芦田塚）
- 文献一㉔
- (20) 羽山嶽経塚（福島市伏拝字羽山嶽）
- 文献一㉔
- (21) 牛の塔経塚（郡山市三穂田町川田）
- 文献一㉔
- (22) 大作経塚（石川郡石川町母畑）
- 文献一㉔
- (23) 三ツ壇遺跡（岩瀬郡長沼町江花）
- 遺物—銅製経筒（享禄五年銘）一。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (24) 青生野経塚（東白河郡鮫川村渡瀬）
- 遺物—銅製経筒（享禄五年銘）一。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (25) 大久保経塚（東白河郡鮫川村渡瀬）
- の六つが收められている。
- また志田正徳の『信達一統志』（天保二年）には、
- (26) 福島市岡部（礫石経）
- (27) 福島市郷野日（法華経千部の埋納塚）
- (28) 福島市李平（礫石経）
- の記事が見える。
- (29) 十光寺経塚（喜多方市慶徳町松舞家）
- 遺物—石櫃（大治五年銘）一、銅製経筒三、陶製壺七、独鉛杵一、五鉛鈴一、磬一、短刀約二〇、鉄鏹一。
- 文献一⑧⑩⑪⑭⑯⑯
- (30) 湯殿山神社経塚（喜多方市松山）
- 遺物—銅製経筒（永禄六年銘）一。
- 文献一㉔
- (31) 大塚山経塚（会津若松市一箕町）
- 遺物—陶製壺一。
- 文献一㉔
- (32) 吊坪山経塚（大沼郡新鶴村）
- 遺物—陶製壺一。
- 文献一㉔
- (33) 館山経塚（大沼郡新鶴村）
- 遺物—陶製壺一。
- 文献一㉔
- (34) 奥之院経塚（大沼郡新鶴村）
- 遺物—銅製経筒（享禄五年銘）一。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (35) 中川経塚（大沼郡金山町中川）
- 遺物—陶製甕一。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (36) 塔寺経塚（河沼郡会津坂下町塔寺）
- 遺物—湖州鏡一、礫石経、木製容器片。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (37) 中目経塚（河沼郡会津坂下町五香）
- 遺物—礫石経（天文十三年銘）。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (38) 五職神経塚（耶麻郡西会津町群岡）
- 遺物—銅製経筒（永正十五年銘）一、銅製経筒（永正十六年銘）一、銅製経筒一、石製外筒三、経巻塊。
- 文献一㉖㉗㉙㉚㉛㉞
- (39) 経壇遺跡（喜多方市字経壇）
- いるものに、
- (40) 小沢田遺跡（大沼郡新鶴村和田目）
- がある。
- また『新編会津風土記』（文化六年）には、
- (41) 橋爪経塚（大沼郡会津高田町橋丸）
- がある。
- (42) 会津郡御山村（経塚）
- (43) 会津郡南原村（経塚）
- (44) 河沼郡南宇内村（礫石経）
- などが記されているほか、平田新五右衛門

門所蔵の銅製経筒（保延五年八月四日銘）の図が残されている。

〈浜通り地方〉

- (45) 白水経塚（いわき市内郷白水町）  
　文献—(15)(18)(19)(23)

(46) 松倉経塚（双葉郡富岡町松倉）  
　遺物—銅製經筒一、白磁甕一、和鏡  
　文献—(18)(19)(23)(35)

(47) 権現山経塚（原町市江井）  
　文献—遺跡地図

以上のように福島県における経塚の分布は、中通りと会津地方に密であるが、浜通りにはわずか三例しかみられない。こうした分布現象について、三宅敏之氏は「古代郷土生活の歴史考古学—経塚を通じてみた福島県の場合」（昭和45）の中で、奥羽街道沿いの中通りに経塚营造の氣運を持った社寺が多かつたということを意味している、と記されている。

① 淡崖（神田孝平）「土中出顯經巻実見記」  
　東京人類学会雑誌二〇　（明治20）

② 犬塚又兵「雜記（須賀川経塚）」東京人類学会雑誌一五　（明治21）

③ 佐藤重紀「東北地方旅行見聞」東京人類学会雑誌三五　（明治22）

④ 大槻如電・大槻文彦「岩代国に於て発

以上のように福島県における経塚の分布は、中通りと会津地方に密であるが、浜通りにはわずか三例しかみられない。こうした分布現象について、三宅敏之氏は「古代郷土生活の歴史考古学－経塚を通じてみた福島県の場合」(昭和45)の中で、奥羽街道沿いの中通りに経塚・营造の気運を持った社寺が多くたということを意味している、と記されている。

参考文献

- (5) 関 保之助 「岩代発見の経筒」 考古界  
一三 (明治34)

(6) 若林勝邦 「岩代国発見の経筒数種」 考  
古界一一 (明治35)

(7) 木崎愛吉 「大日本金石史一」 (大正10)

(8) 一瓶 清 「大治年間の経塚発掘」 北陽  
史談八一四 (昭和4)

(9) 跡部勝邦 「福島県下に遺存する供養碑  
に就て」 史蹟名勝天然記念物五一七 (昭和5)

(10) 一瓶 清 「大治五年経塚発掘」 会津と  
考古特輯号 (昭和10)

(11) 一瓶 清 「耶麻郡慶徳村大字松舞金山  
経塚発掘品に就いて」 岩磐史談一 (昭和5)

四 (昭和11)

(12) 岩越二郎 「福島県出土の承安元年籠書  
経筒に就いて」 福島史学研究四 (昭和29)

(13) 新鶴村誌編纂委員会 「奥州会津新鶴村  
誌」 (昭和34)

(14) 竹内理三 「平安遺文金石文編」 (昭和35)

(15) 内郷市教育委員会 「白水阿弥陀堂苑池  
発掘調査報告書」 (昭和37)

(16) 蔵田 蔵 「経塚論」 (東京国立博物館  
保管、東北地方出土の経塚遺物) (昭和48)

(17) 奥村秀雄 「経塚研究の一視点」 (藤井姓  
MUSEUM一四八) (昭和38)

(18) 福島県 「福島県史 六 (考古資料)」 (昭和39)

(19) 木口勝弘 「奥州経塚の研究」 (昭和40)

(20) 中村五郎 「岩代承安経筒銘に見る藤井  
姓について」 大和文化研究一〇一五 (昭和40)

(21) 東京国立博物館 「東京国立博物館図版  
目録一 経塚遺物編一」 (昭和42)

(22) 福島県教育委員会 「文化財読本」 (昭和45)

(23) 二毛敏之 「古代郷土生活の歴史考古学  
—経塚を通じてみた福島県の場合—」 (昭和52)

(24) 須賀川市 「須賀川市史二 中世編」 (昭和48)

(25) 郡山市 「郡山市史八」 (昭和49)

(26) 奈良国立博物館 「新館落成記念 経塚  
遺宝展 (展観目録)」 (昭和48)

(27) 福島県考古学会 「中日経塚」 (福島県考  
古学年報四) (昭和49)

(28) 福島県考古学会 「昭和四十九年福島県  
内埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表」 (昭和49)

(29) 金山町 「金山町史上」 (昭和49)

(30) 中村五郎 「中日経塚遺跡」 (日本考古学  
年報二七) (昭和49年度)

(31) 福島県考古学会 「西田山経塚」 (福島県  
考古学年報五) (昭和51)

(32) 中日経塚調査会 「会津坂下町中日経塚」  
福島考古一七 (昭和38)

(33) 須賀川市教育委員会 「米山寺経塚」 (昭和39)

(34) 川俣町 「川俣町史一 (原始・古代・中  
世・近世資料編一)」 (昭和51)

(35) 梅宮 茂・日黒吉明・木本元治・丹羽  
茂 「福島県内出土中世陶磁器につ  
て」 (昭和52)

(36) 池田京子・長根裕子 「天王寺経筒につ  
いて」 (昭和52)

(37) 吉田幸一 「史跡米山寺・米山寺経塚群  
試掘調査速報」 南奥古文化 (昭和52)

(38) 郡山市 「郡山市史一」 (昭和50)

(39) 会津坂下町 「会津坂下町史二 (文化編)」  
試掘調査速報 南奥古文化 (昭和52)

(40) 会津若松市 「会津若松市史 別巻一」  
(昭和50)

(41) 川俣町教育委員会編 「西田山経塚発掘  
調査報告書」 (昭和50)

(42) 三毛敏之氏の「古代郷土生活の歴史考古  
学—経塚を通じてみた福島県の場合—」  
(昭和45) におうところが多かった。  
(筆者は東京国立博物館有史室勤務)

## 東北地方の経塚遺物年表

西紀	年号	遺物	出土地	文献
1130	大治5	石櫃	福島県喜多方市塵徳町松舞家	岩磐史談-4
1140	保延6	銅經筒	山形県南陽市宮内別所山	MUSEUM148
1149	久安5	銅經筒	秋田県平鹿郡大森町八沢木	考古学雑誌42-4
1167	仁安2	銅經筒	山形市山寺	歴史考古12
1168	仁安3	銅經筒	秋田県大曲市六郷東根一字山	考古学雑誌42-4
1171	承安1	陶外筒	福島市飯坂町寺山	考古1-5
1171	承安1	陶外筒	福島県須賀川市西川字坂ノ上米山寺経塚	考古界1-3
1171	承安1	陶外筒	福島県伊達郡桑折町平沢字一本松	福島史学研究4
1184	寿永3	銅經筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42-4
1196	建久7	銅經筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42-4
1206	元久3	銅經筒	秋田県横手市金沢町寺沢	考古学雑誌18-1
1252	建長4	銅經筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1283	弘安6	礫石経	宮城県宮城郡利府町道安寺	東北歴史資料館研究紀要1
1319	文保3	銅經筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1376	永和2	銅經筒	宮城県黒川郡富谷町二ノ関	考古学雑誌1-5
1518	永正15	銅經筒	福島県耶麻郡西会津町群岡	『福島県史6』昭和39年
1519	永正16	銅經筒	福島県耶麻郡西会津町群岡	『福島県史6』昭和39年
1528	大永8	銅經筒	宮城県牡鹿郡鮎川町網地島	東北歴史資料館研究紀要1
1529	享禄2	銅經筒	宮城県志田郡三本木町坂木館山	東北歴史資料館研究紀要1
1531	享禄4	銅經筒	宮城県仙台市愛宕山	東北歴史資料館研究紀要1
1532	享禄5	銅經筒	福島県大沼郡新鶴村中田	『奥州会津新鶴村誌』
1533	天文2	銅經筒	山形県東置賜郡宮内町所部	歴史考古12
1535	天文4	銅經筒	福島県伊達郡靈山町下小国	
1536	天文5	銅經筒	山形県尾花沢市六沢	歴史考古12
1542	天文11	銅經筒	山形県米沢市窪田	歴史考古12
1544	天文13	礫石経	福島県河沼郡会津坂下町五香中目	福島考古17
1546	天文15	銅經筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1547	天文16	銅經筒	宮城県桃生郡河北村横川	考古学雑誌24-11
1551	天文20	銅經筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1555	天文24	銅經筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1551 ~1555	天文2口	銅經筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1557	弘治3	銅經筒	山形県東置賜郡川西町大舟	歴史考古12
1563	永禄6	銅經筒	福島県喜多方市松山湯殿山神社	『福島県史6』
1569	永禄12	銅經筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1584	天正12	銅經筒	岩手県遠野市小友	東京国立博物館紀要4